中食連･日食協東海支部合同懇談会開催

― 11 月 12 日 ―

中部食料品問屋連盟は11月12日、正会員・賛助会員合同懇談会を名古屋観光ホテルで開催、正会員・賛助会員など239名が参加した。

合同懇談会は永津邦彦会長の開会挨拶で始まり、研修の部では日本加工食品卸協会の奥山則康専務理事が日食協重点活動を報告。続いて行われた講演の部では、作家・編集者の畑中三応子氏を講師に招き、「ファッションフードの150年―食は情報戦である―」の演題で講演し、ファッションフードの定義と歴史、ファッションフードとしての名古屋メシの分析などを解説した。

懇談会は青木昌広副会長の開会挨拶に続いてカゴメ・宮地雅典名古屋支店長が「我々の取扱う商品にさらなる磨きをかけ付加価値をつけ臨まなければならない。生きるためには食べることが必要となるが、食べることを楽しむために生きることを目指し、食に付加価値をつけていきたい」と述べて乾杯の音頭をとった。各所で歓談が交わされた後、味の素・島本達也名古屋支社長が「厳しい年末を迎えているが、上半期と比べれば改善傾向にあると感じられる。卸はサプライチェーンの中でメーカーと小売を結びつける大きな役割を担っている。〝良い商品を、良い流通で、良い消費〟とあるように、中部エリアにおいても大いに役割を発揮して欲しい」と中締めを行い散会となった。

講演する畑中三応子氏

〈永津会長〉

日本の誇る和食の食文化がユネスコの世界無形文化遺産に登録され、世界でも高い評価を受け注目を集めている。さらに円安もあり日本に訪れる外国人が増加している。免税対応を進め業績を伸ばしている小売業も見られる。我々の携わる食も免税の拡大に含まれており、食品業界一丸となって新たな需要の取り込みを進めていきたい。

開会の挨拶をする
中食連会長・東海支部長
永津邦彦氏

名古屋においてはリニア新幹線が着工され、東京と名古屋が40分で結ばれる時代が到来します。日本における名古屋の役割はさらに大きくなり、名古屋駅前のビルやホテルの大規模なリニューアルも積極的に進められています。人が動けば食のマーケットも大きくなる。中食連として食の面で中部を支えていきたい。

〈青木副会長〉

和食の食文化のユネスコ登録やTPPなど食に関する話題が多く、TVでも食に関連した内容の番組が目立ち、食に関する産業に注目が集まっている。従来、食品分野はほかの分野と比べ

光を浴びにくい傾向にあったが、食は素晴らしいものであることを再認識したい。食のテクニシャンとして自らの商品を安売りすることなく磨いていく、〝美味しさ〟の競争をし、その先にある〝幸せ〟の競争に向かいたい。食に携わる我々中食連は幸せつくりの団体であり、そのパートナーは全て仲間である。一緒になって頑張っていきたい。

懇談会の開会挨拶をする
青木昌広副会長

〈日食協重点活動報告：奥山専務理事〉

市場規模が広がらないなかで卸売業にとって重要な物流環境がかつてない厳しさであり、まさに業界として正念場を迎えている。メーカーには価格改定の動きもあり、商環境の是正も含め取引環境を改善するには今のような値上げの機会は逃せない。小売業にも状況を充分に認識してもらい、円滑な流通のために適正な流通マージン確保に努め、質への転換を図っていきたい。

消費税増税の際に導入が検討されている軽減税率については財源の問題をはじめ、対象品目の線引きの困難さ、コスト負担の大きさなど懸念材料が多く、協会として8月末の与党税制協議会の業界ヒアリング時に「消費税率10%までは軽減税率を導入せず、単一税率制度の維持」を要望した。食の流通は命を守る流通である。全ての事業者が優れたシステム力や事務処理能力を有しているわけでなく、消費税増税システムは出来る限りシンプルかつ合理的なものが望ましい。引き続き推移を注視していきたい。

共通インフラの整備では、物流問題研究会から日本即席食品工業会にパレット積み配送についての要望を行い、前向きに検討してもらっている。メーカーと卸間には合理化の余地は、まだあると考えられ、経理業務の標準化などで取組みを進めていく方針だ。
農林水産省が応援する「スマイルケア食」の愛称がつけられた介護食は成長分野であり、協会としても拡大に協力したい。

活動報告をする日食協
奥山専務理事

研修会　会場

懇親会　会場

北海道支部　交流会開催

― 11月14日 ―

日本加工食品卸協会北海道支部ワーキンググループは、10月21日（火）京王プラザホテル札幌に於いて毎年実施している会員卸と賛助会員との交流会を午後4時から開催し、約120名が参加した。今回は、講師に株式会社野村総合研究所サービス・産業ソリューション第一事業本部主席コンサルタント　辻直志氏を招き「成熟化する食品流通の変革～食文化あふれる北海道の可能性～」と題して講演を行った。終了後懇親会を行い、高橋清氏（東洋水産㈱）が乾杯の発声を行い懇親会が始まった。最後に中締めを北海道支部ワーキンググループの西尾敏明氏（国分㈱）が行って閉会となった。

◎研修内容

○縮小市場における小売流通業の構造変化

生鮮流通を生かした食品流通へ

＊国内消費市場は縮小の時代へ

＊小売流通業におけるマクロ環境変化

＊流通構造の変化

・小売企業の水平統合の拡大

・業態、フォーマットの拡大

・製配販の垂直連携／統合の拡大

＊日本の卸売市場

＊卸売市場法による流通制約の存在

＊国際的にみた生鮮流通環境

＊わが国の消費者の特徴

＊競争力確保に向けた食品スーパーのアプローチ

＊生活者市場のトレンド

＊わが国におけるこれからの小売の競争環境

＊卸売市場法の改正による取引の自由化

＊規制緩和による青果流通自由化の実態／変化

＊消費者志向の変化

＊新しい競争環境下で求められる製・配・販連携の在り方

＊北海道には多様な食材が溢れている

講演する辻直志氏

懇親会の開会の挨拶をする
高橋清氏

交流会　会場

懇親会　会場

関東支部　経営実務研修会開催

― 11月14日―

開会の挨拶をする
関東支部長　田中茂治氏

平成26年11月14日（金）関東支部の経営実務研修会を日暮里のホテルラングウッドに於いて開催した。当日は山本忠司氏（国分(株)）の司会進行で、最初に関東支部長の田中茂治氏（(株)日本アクセス）は、「増税から半年以上がたち、小売への客の流れが変わった。内食回帰でCVSからスーパーへ、外食から内食へと変わり、外食の客数が減っている。節約のため“家飲み”がブームで国分の『缶つま』が売れ、とりわけ居酒屋などの業態が厳しい。アルバイトも雇えず、深夜営業の中止・短縮などもあり客数が減っている。一方、単価5,000円以上の高級レストランは順調で、一部企業の景気が良い裏づけかもしれない。消費者の低価格志向は一辺倒ではなく、特に都内で高級牛肉が売れている。高価値訴求と低価格志向が、二極分化ではなく混在している。グローサリーを事業基盤としている業界は、低価格志向で価格競争が厳しさを増しなかなか値上げができない。円安によりメーカーの製品価格のアップ、物流コストや人件費の上昇と逆風で、低価格志向とギャップがある。卸の適正な対価と合せてどうしていくか生死に関わる経営課題。協会ではこういった環境下、情報システム、物流コストなど共通インフラで全体最適の方法を目指す事であり、皆様のご協力を願いたい」と開会の挨拶をした。

続いて奥山専務理事が、事業活動について①与党税制協議会で、軽減税率は導入せず単一税率維持を要望、②基本方針“共通インフラ再構築”の一環として、日本即席食品工業協会にラーメン類のバラ積み配送状態からパレット配送へのあり方について意見交換行った③11月11日の介護の日に、農林水産省が、新しい介護食品の愛称を『スマイルケア食』に決定し、高齢化社会の食の供給に万全を期す考え。流通業界も市場開発に向けておおいに取り組むべきと思うと発言した。

その後講演の部に入り、食品新聞社東京本社編集局の横田弘毅氏が「問屋無用論と卸存立根拠論～社会最適化装置としての食品卸～」と題して林　周二氏著の「流通革命」が何を主張し、どこが間違っていたのか、また食品卸の変遷と方向性について講演した。その後懇親会を行い、開宴の挨拶を関東支部流通業務委員長の大河内　茂氏（(株)升喜）が行い、中締めを渡辺　徹氏（三井食品(株)）が行って閉会した。

講演する食品新聞社
横田弘毅氏

懇親会で挨拶する関東
支部流通業務委員長
大河内　茂氏

懇親会で中締めの挨拶
をする渡辺徹氏

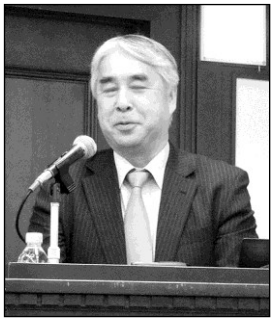
東北支部　経営実務研修会開催

― 11月18日－

開会の挨拶をする
東北支部長　堀内琢夫氏

平成26年11月18日（火）東北支部主催の経営実務研修会がホテルモントレ仙台で開催された。当日は3時半から正会員卸、事業所会員による経営情報交換が行われ、堀内琢夫東北支部長（丸大堀内(株)）が開会の挨拶を述べた後、奥山専務理事が、日食協事業活動報告を行った。終了後会場を移して午後4時から経営実務研修会を行い、最初に、堀内支部長が挨拶し、「厳しい時を共有しているメーカーの皆さんとアゲインストの風の中で知恵を出して乗り切っていきたい」と述べた。

この後奥山専務理事が、日食協の事業活動報告を行い、最後に、(株)野村総合研究所　産業ソリューション第一事業本部　主席コンサルタント　辻　直志氏が「成熟化する食品流通の変革」と題して講演した。その中で、特に「食品流通は、量的成長を目指すのではなく、安心・安全・美味しさの付加価値成長を目指すべきであり、商品に付加価値を与えるプロデューサーが必要であり、自社の保有資源と強み、生産者・消費者の地域特性を踏まえ、何を、どうプロデュースするかで勝負は決まる」と強調された。終了後、懇親会を行い、開宴のご挨拶を、山本隆正氏（三井食品(株)）が行い、中締めを高原　歩氏（日清オイリオグループ(株)）が行って閉会となった。


講演する辻直志氏

経営実務研修会　懇親会会場

北陸支部　経営実務研修会開催

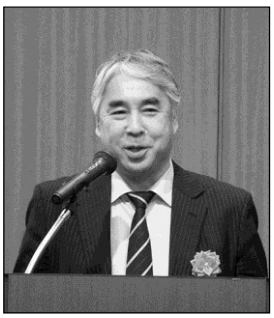
― 11月26日 ―

開会の挨拶をする
北陸支部長　荒木章氏

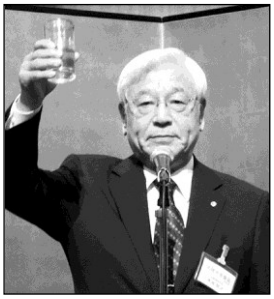
平成26年11月26日（水）北陸支部主催の経営実務研究会が金沢市のANAクラウンプラザホテル金沢で開催された。当日は、会員卸と賛助会員合せて総勢85名が出席し、中野義之氏（石川中央食品(株)）の司会進行で始まり、最初に北陸支部長の荒木　章氏（カナカン(株)）が開会の挨拶を行い「過去に類のないような厳しい経営環境であるが、市場の声を聞きながら、提案機能を駆使し、適正な価格に転嫁して健全な食品流通業を目指していきたい。競争と協調の同時進行が必要な時代と認識する」と述べた。

次いで、奥山専務理事が、事業報告として軽減税率や物流コストなど3項目について次のように語った。政府は公共事業の円滑な執行、法人税の減税の具体化、さらなる規制緩和等によって、景気の下支えと成長戦略を推進してほしい。一部報道によると消費税10％への移行が2017年4月に延期されるという。これまで軽減税率導入反対の根拠のひとつとして、会計システムの開発に時間を要することをあげていたが、延期されると10％引き上げと同時に軽減税率が導入される可能性もあり、注視する。物流の環境はかって経験したことのない厳しい状況。一部メーカーに価格改定の動きがあり、商慣行の是正も含め取引環境の改善には価格改定の機会しかない。小売業側にも理解を求め、円滑な流通を維持するため、適正マージンが確保でき

るように要請していきたい。11月11日は「介護の日」農林水産省が介護食品の愛称を「スマイルケア食」に決め、区分基準も示し、認知度と普及拡大のため予算措置を行う。卸側もスマイル食が多くの小売店頭に並ぶよう協力していく。


講演する辻直志氏

ついで、野村総合研究所の辻　直志氏が「成熟化する食品流通の変革」と題して講演し、「食品流通は量的成長を目指すのではなく、安全、安心、美味しさの付加価値成長を目指すべきであり、食品卸売業は、商品に付加価値を与えるプロデューサー機能が必要」と述べた。終了後、懇親会を行い、北陸副支部長の澤田悦守氏(北陸中央食品(株))が開宴の挨拶と乾杯の発声を行い、中締めを伊藤雅孝氏（北陸国分(株)）が行って閉会した。


懇親会で挨拶をする
澤田悦守氏

懇親会で中締めの挨拶
をする伊藤雅孝氏

北陸支部 研修会会場

九州沖縄支部連絡協議会･賛助会員連絡会開催

－ 12月2日 －

九州沖縄支部は、平成26年12月2日（火）博多ANAクラウンプラザホテルに於いて17時より連絡協議会を開催した。

開会の挨拶をする
九州沖縄支部長　本村道生氏

当日は、支部事務局の白土恵一氏（コゲツ産業(株)）の司会進行で始まり、冒頭に九州沖縄支部長の本村道生氏（コゲツ産業(株)）が開会の挨拶を行って、議事に入り、①平成27年度九州沖縄支部及び各県同業会主催新年交礼会について②各同業会活動内容報告がなされた後、今後とも日食協と連携して各地域同業会活動を行うかどうかについての意見交換が行われた。最後に奥山専務理事が日食協事業活動を行って終了した。次いで会場を移して賛助会員連絡会を開催した。最初に本村支部長が開会の挨拶を行い、ついで支部事務局より連絡協議会と同様の内容を報告し、奥山専務理事から日食協事業活動報告として軽減税率制度についての検討内容等について報告した。終了後懇親会を行い、開宴のご挨拶を賛助会員を代表して深瀬成利氏（味の素(株)）が行い、中締めを副支部長の田村哲丸氏（ヤマエ久野(株)）が行って閉会となった。

懇親会で挨拶をする
深瀬成利氏

連絡協議会　会場

懇親会で中締めの挨拶
をする田村哲丸氏

連絡会　会場